進が1位

第1回白根市政世論調査の結果

カとハエをなんとかして —環境衛生の面でも不満—

八月一日現在で行なわれた「第一回白根市政世論調査」の結果がまとまり、このほど市企画審議室からその内容が発表されました。今回の調査は、満二十歳以上の市民で、市の選挙人名簿に登録されている約二万一千人の中から、二十分の一に当たる千九十九人を無作為に抽出し、この人たちを対象として行なわれたもので「あなたは市にもっとも力を入れてほしいと思うのは、どんなことですか」など二十一項目について、それぞれの意見や要望を聞きました。その結果、住民の大半は道路の舗装を促進してほしいと望んでいることがわかりました。また、道路を舗装するに当たっては、交通量の多い所から重点的に、こまぎれ舗装を避けて実施してほしい、などの意見も聞かれました。細部についての内容は次のとおりです。

まだまだ長い未舗装の市道……七軒地内で

続く人口の流出

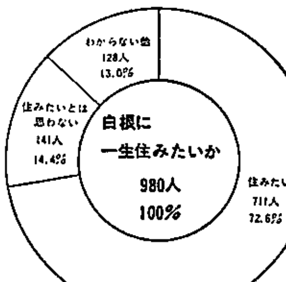
まず調査対象の特性としてとらえた、年齢別、男女別の回答者数では、次ページ問1のとおり、男では三十歳代が全体の約四分の一を占めており、次に多いのが四十歳代となっています。

一方、女では四十歳代がいちばん多く、次が三十歳代となっていました。しかし、男女の合計でみると、ひとりの差で三十歳代が多く、三、四十代の合計では全体の約半数近くを占めていることがわかりました。

同じくこれを職業別からみると、問2の表のとおり、男女いずれも農業従事者が全体の半数近くを占めており、依然として本市の産業に占める農業の割り合いの大きい事がうかがわれます。この結果、問3からの調査項目で、農業振興を求める声が大きなウェートとなって現われていることもうなずけられます。

問3 「一生白根市に住みたいと思いますか」という問いに対して"一生住みたい"と答えた人は、全体の七二・六%で"一生住みたいとは思わない"と答えた人は一四・四%でした。

この数字は、同格の市の実情がわからないため、そのまま分析するのは危険ですが、昨年八月に県が行なった「県民の意識調査」では"一生住みたい"と答えた人は七四%、同じ時期に新潟市が行なった「市民の世論調査」では八〇%であったことからみて、本市の定着率は県平均以下であることと、大きな市の定着率が高いことからして、まだまだ本市の人口は流出する傾向にあるといわれましょう。



問4 "一生住みたいとは思わない"と答えた百四十一人に対して「それはなぜですか」と聞いたのに対して、三六・九%に当たる五十二人が"教育文化施設が少ないから"と答え、一九・九%に当たる二十八人は"レクリェーション施設が少ないから"と答えました。

この結果、過半数を占める五六・八%の人が都市的施設が少ないという理由で、本市から離れたいと希望していることがわかりました。

問5 「本市は今後どんな都市となることが望ましいと思いますか」との問いに対して"田園都市"と答えた人は三八・四%"工業都市"と答えた人は三一%であり、国の農業政策の変転からか、農業従事者の中でも工業都市化を望んでいる人が意外に多くいることがわかり、改めて身近かに迫った農業の曲り角を強く感じさせられました。

また、これを地区別にみると、町部と村部とではかなりはっきりした色合いの違いはみられますが、例外として近年工場進出の著しい茨曽根地区で、三二・一%対三七・七%で工業都市化を希望しているのが注目されます。

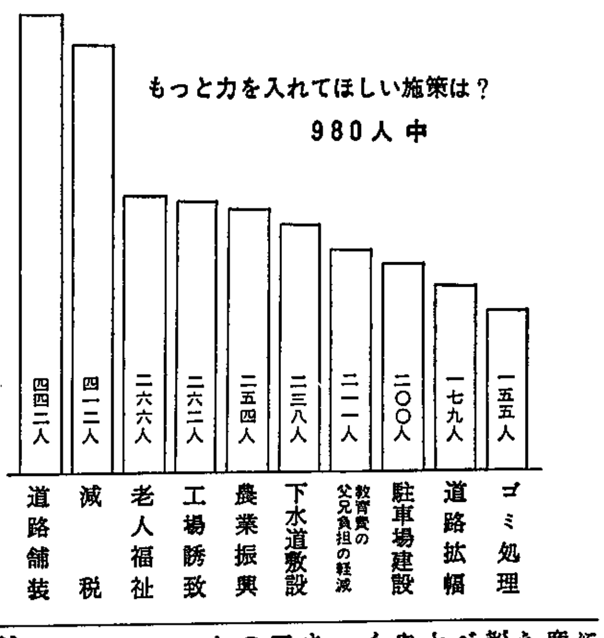
問6 「市が重点施策として取り組んでいるのはどんな事だと思いますか」との問いでは、回答者九百八十人中四百五十九人（四六・八%）が道路舗装と答えており、二位の工場誘致＝二百九十七人（三〇・三%）以下を大きく引き離しています。

問7 さらに「それでは市にもっと力を入れてやってほしいのはどんな事ですか」という質問に対して、四五・一%に当たる四百四十二人が"道路舗装を促進してほしい"と答えており、自動車の保有率で県下一の本市としては、当然の要望として現われて来ています。

また、減税を望む声もその次に高く、四百十二人（四二%）から聞かれました。

さらに最近の核家族化から老人家庭の増加を反映して、老人福祉の要望が第三位で二百六十六人（二七・一%）などの順となっています。

これを地区別に分類して、上位三項目を比較してみると新飯田地区では舗装、減税、プールの建設が上位を占め、茨曽根、庄瀬、小林、大郷、鷲巻の五地区では舗装、減税、農業振興、臼井地区では減税農業振興、老人福祉、根岸では舗装、減税、駐車場の建設白根では下水道の敷設、減税舗装などとなっており、ほとんどの地区で舗装と減税が強く要望されていました。



問8 「あなたの地区で日ごろ不満に思っていることがありますか」との問いには、ほとんどの地区でカ（蚊）の多いことを不満の第一にあげており、回答者の四一・四%に当たる四百六人がこの点を指摘しています。

また、ハエ（蝿）の多い事も二百三十三人（二三・八%）から指摘されており、環境衛生の面での不満が多かったようです。

子どもの遊び場 半数以上が要望 白根地区では80%の高率

問9 での「あなたの地区に日ごろどういう施設がほしいと思いますか」との質問でも問7と同じく、ほとんどの地区で"道路の舗装を促進してほしい"との要望が上位を占めていました。しかし、比較的舗装の進んでいる白根、臼井、鷲巻の三地区では、子どもの遊び場を第一希望にあげており、同じく新飯田地区ではプールの建設を第一希望に、子どもの遊び場を第二希望にあげているというように、舗装の次に要求されている「子どもの遊び場」と「公園」を合わせると、市民の半数以上は、いわゆる広場がほしいと考えています。特に白根地区では八〇%という高率で、これらが要求されていることがわかりました。

問10 「こんご市を発展させるにはどのような計画で進めたらよいと思いますか」との問いでは"産業を盛んにし、地元が豊かになるよう産業基盤の整備に重点を置く"と答えたのは六百七十七人で六九・一%"公園をふやしたり、その他生活環境の整備に重点を置く"と答えたのは百二十二人で一二・四%であると、その差は五六・七%であることがわかりました。一般的にこの差の少ないほど都市的環境にあるといわれていますが、ちなみに新潟市の同調査では、この差は一八%でした。

問11 「市の事業と、税などの負担についてどう思いますか」と質問したのに対して"受益者からある程度の負担をしてもらう"と答えたのは四百六人で四一・四%を占め"まず減税を考えるべきだ"と答えたのは二百八十四人で二九%"事業を多くやるなら少しくらい税金は高くともよい"は百四人で一〇・六%"事業も税金も今のままでよい"は六十三人で六・五%という結果になり、負担の公平を望む声が最も強く聞かれました。

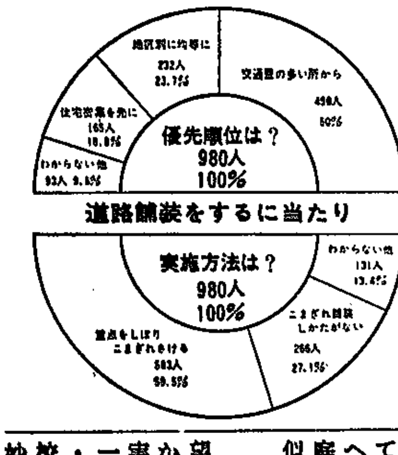
問13 この項では問12で市役所へ行った事のある人に対して「その時職員の態度はどうでしたか」と聞いたところ、半数以上に当たる三百六十四人は"普通だった"と答えていますが"よかった"の九十五人（一三・四%）よりも"よくなかった"の方が百十三人（一六%）とやや上回って評価されていることがわかりました。

道路舗装 こまぎれは避けて

問14 問7と問9で希望率第一位だった道路の舗装について「舗装を実施するに当たり、優先順位や実施方法について」意見を聞いたところ、まず優先順位では"交通量の多い所から"と答えたのが四百九十人（五〇%）で第一位、続いて"地区別に均等に"が二百三十二人（二三・七%）"住宅密集地から"が百六十五人（一六・八%）の順となっていました。

また、実施の方法では"こまぎれにならないよう重点をしぼって実施する"との答えが五百八十三人（五九・五%）で"工事の場所を多くするならこまぎれ舗装もしかたがない"の二百六十六人（二七・一%）を押えていました。

しかし、茨曽根、小林、庄瀬、根岸の各地区では"こまぎれ舗装もしかたがない"の意見もかなりの高率を占めており、こまぎれでもよいから各地区均等にと望んでいることがうかがわれます。



問15 「交通災害共済制度について伺います」では、この制度のあることを知らなかった人が一割強もいることがわかり、改めてPRの不足が指摘されたようです。

問16 「最近一年間に市政についての不満がありましたか」では、あったと答えた人は三百五十七人（三六・四%）で「その不満をどう処理したか」との質問では二百三十人（六四・四%）の人があきらめムードから何もしなかったと答えています。

問17 「広報しろねについて」毎号届いていますか—との質問では八六・九%は完全に届いていると答えており、内容を読んでいますか—では全部から時々まで、八九・四%の人から何らかの形で読まれていることがわかりました。

問18 「市政や議会の動きを何によって知ることが多いですか」では、広報しろねが四分の三に当たる七六・三%を占めており、広報紙本来の使命をある程度果していることがわかりました。

問20 「市小中学校統合第二次修正基本計画の内容を知っていますか」では知っている四六・七%、知っていない四四・八%で、学校へ通っている子どものいる家庭といない家庭の比率にやや似ています。

問21 「小中学校の施設設備について、最も希望することはどんなことですか」との質問では、教材の充実三六・三%、校舎の増改築一五・八%、校地の拡張一一・二%などがおもな方で、学校統合とのからみ合いから微妙な問題を投げています。